

## 令和5年度教職員による自己評価 集計結果

※ 評価基準

4 = よくあてはまる。大変努力している。  
2 = あまりあてはまらない。あまり努力していない。

3 = ややあてはまる。努力している。  
1 = 全くあてはまらない。努力不足である。

10%以上の増加 ↑  
5%以上の増加 ↗  
5%未満の増加 →  
5%以上の減少 ↓  
10%以上の減少 ↘

令和5年度教職員による自己評価項目

番号	項目	評価基準(人)				今年平均	昨年平均	評価基準(%)								4・3の%変化			
		4	3	2	1			4		3		2		1		昨年度	今年度		
								今年	昨年	今年	昨年	今年	昨年	今年	昨年				
1	校訓である「自律・敬愛・剛健」を基本理念として「文武両道」を目指し、生徒に対し「知・徳・体」の調和のとれた人間形成を行っている。	3	13	1	0	3.1	3.3	18	33	76	65	6	2	0	0	98	-	94	-4.1
2	人権教育を基本として、全ての教育活動の報告・連絡・相談を確実にし、教育活動の改善に努めている。	3	14	0	0	3.2	3.5	18	48	82	52	0	0	0	0	100	-	100	0
3	生徒に学習課題（予習・復習、宿題等）を適切に課している。	5	10	2	0	3.2	3.2	29	36	59	54	12	6	0	4	90	-	88	-2.3
4	授業の振替・補充を行うなど授業時数の確保に努め、授業は開始のチャイムで始まり終りのチャイムで終わらせるようにしている。	8	7	2	0	3.4	3.5	47	54	41	42	12	0	0	4	96	↘	88	-8.4
5	学習時間確保のために具体的・効果的な指導助言を行っている。	10	7	0	0	3.6	3.3	59	36	41	60	0	0	0	4	96	-	100	4.2
6	研究授業・相互授業参観等や生徒による授業評価アンケートを活用し、教科内で連携しながらアクティブラーニング的要素を組み込んだ授業実践を推進している。	11	6	0	0	3.6	2.7	65	12	35	54	0	30	0	4	66	↑	100	51.6
7	基本的な生活習慣の確立や服装容儀、いじめの禁止等について、徹底した指導をしている。	11	5	1	0	3.6	3.5	65	50	29	48	6	2	0	0	98	-	94	-4.1
8	小さな変化を見逃さないよう、生徒の見守りや相談しやすい態勢づくりに努めている。	9	7	1	0	3.5	3.5	53	49	41	51	6	0	0	0	100	↘	94	-6
9	生徒が日常的にあいさつをすることができるよう指導している。	11	6	0	0	3.6	3.4	65	47	35	49	0	4	0	0	96	-	100	4.2
10	清潔な学習環境の確保や生徒の人間力を高めるために、清掃活動を徹底している。	10	7	0	0	3.6	3.5	59	48	41	52	0	0	0	0	100	-	100	0
11	生徒の夢実現のために、生徒一人ひとりの進路目標を具体化させている。	5	12	0	0	3.3	3.2	29	30	71	64	0	4	0	2	94	↗	100	6.4
12	生徒の進路希望等をふまえて大学入試問題等を分析し、その成果を進路指導や教科指導に活かしている。	14	3	0	0	3.8	3.3	82	48	18	40	0	10	0	2	88	↑	100	13.7
13	学部学科研究や入試制度などの理解を深めさせるとともに必要な学力について具体的な示唆を与えている。	13	1	2	1	3.5	3.1	76	30	6	56	12	12	6	2	86	↘	82	-4.7
14	安心・安全な学習環境のための施設・設備の改善に積極的に関わっている。	5	11	1	0	3.2	3.5	29	48	65	50	6	2	0	0	98	↘	94	-4.1
15	適切な会計処理を行っている。	7	10	0	0	3.4	3.8	41	83	59	15	0	0	0	2	98	-	100	2.1
16	勤務時間を意識した業務管理を行っている。	14	3	0	0	3.8	2.9	82	20	18	52	0	23	0	5	72	↑	100	38.9
17	ICT活用については校務とともに授業での活用もしている。	9	8	0	0	3.5	2.7	53	24	47	34	0	34	0	8	58	↑	100	72.5
18	1 川内高校生として望ましい基本的な生活習慣を身につけさせるように努めている。	12	4	0	0	3.8	3.4	75	44	25	56	0	0	0	0	100	-	100	0
19	2 適性に応じた進路設計をさせ、進路実現のための基礎学力の充実に努めている。	9	7	0	0	3.6	3.1	56	12	44	88	0	0	0	0	100	-	100	0
20	3 中堅学年の自覚と責任を持たせ、学校行事、部活動や清掃等に主体的に取り組ませるように努めている。	6	8	0	0	3.4	3.3	43	35	57	59	0	6	0	0	94	↗	100	6.4
21	4 進路研究をより一層推進し進路目標の具体化を図り、さらに、学習時間を増加させ、基礎学力と応用力の養成に努めている。	2	12	0	0	3.1	3.3	14	31	86	69	0	0	0	0	100	-	100	0
22	5 全ての教育活動に積極的に参加・活動させ、規則を遵守するなど、規律正しい心豊かな調和のとれた生徒の育成に努めている。	6	10	0	0	3.4	3.5	38	53	63	47	0	0	0	0	100	-	100	0
23	6 進路実現のために適切な進路指導を実践し、目標達成のための学力を身につけさせるように努めている。	10	6	0	0	3.6	3.6	63	56	38	44	0	0	0	0	100	-	100	0

(単位は%)

【評価分析概略】

(1)	全体的に前年より4・3の割合が減少した項目が7項目だけで大きく下降（10%以上）した項目はない。定期人事異動で教職員は変わっても、学校長のイニシアチブのもと、全職員が苦悩しつつも本校をもっと良くしようと努力している姿勢があると思われる。
(2)	項目4、項目8がやや下降（5%以上10%未満）した。特に項目8の生徒の見守り・相談体制の充実について、戸惑いや不安を感じている教員が増えているようだ。職員研修も精選する必要はあるが、生徒指導・進路指導に関して教員が必要とする情報共有・指導のあり方などの研修は必要だと思われる。
(3)	項目11と項目20がやや上昇（5%以上10%未満）した。項目12の大学入試問題分析の生徒への還元、項目16の勤務時間を意識した業務管理のあり方が10%以上上昇しており、教科指導力の向上や時間外労働時間の削減に対する意識が高くなりつつあることは良い傾向である。項目6の授業改善が前年比+50%超、項目17のICT活用は前年比+72%超と顕著な伸びを示しており、職員のタブレット使用頻度増加も授業改善につながっていると思われる。